

- 1 報告地区 : 後志地区
- 2 事例報告学校名 : 寿都町立寿都小学校
- 3 報告者職・氏名 : 校長 前田 敦子
- 4 キーワード : コミュニティ・スクール

1 はじめに

寿都町は日本海に面した寿都湾を囲む自然豊かな町で、「寿かき」に代表される新鮮な魚介類を求めて町外から多くの人々が訪れる。また、「風のふるさと」といわれるほどの強風を生かし、町単独で運営する風車11基による風の恵みの利益によって教育環境の充実が図られている。

本校は、明治11年に中歌小学校として開校し、今年で142年目を迎えた。当時の人たちの新しい時代への夢と希望を託された学び舎は、多くの人たちにより社会に有意な人材を育て、コミュニティとして地域の要となってきた。年々児童数が減少し、現在は全校児童89名の小規模校である。

平成26年度から、文部科学省の「コミュニティ・スクールのマネジメント力の強化に関する実践研究校」を受けて、本格的にコミュニティ・スクールがスタートし、今年度で7年目を迎える。

現在では、町内すべての小・中・高校で、コミュニティ・スクールを導入し、子どもたち、地域の方々の夢を育てる学校として大きな期待が寄せられている。

本稿では、学校運営協議会と学校支援活動が一体となって推進する教育活動について紹介する。

2 具体的な取組

(1) 組織

①学校運営協議会（CS）

学校運営協議会は、①地域住民の学校運営参画②地域力を生かした学校支援③学校力を生かした地域づくりを柱として、年間4回の定例会議を開催し、意見交換・熟議を行っている。また、CS委員の資質の向上と、より自由な意見交流会を目的として、学校独自の研修会を開催している。校長の学校経営方針・学校の教育活動を理解していただきながら、互いに信頼し合い、それぞれの立場で主体的に地域の子どもの成長を支えていく学校づくり、地域コミュニティづくりを目指している。



②学校支援地域本部

子どもたちが、寿都の歴史や文化、産業やキャリア教育など、生きた学びを体験するために、地域の方々が、それぞれの職業や特技を生かし学校サポーター（ボランティア）として学習のサポートを行っている。事前に、学習のねらいや活動計画などについて担任と打ち合わせながら、取り組んでいる。

③CSコーディネーター

本町のCSコーディネーターは、ボランティアや教職員ではなく町の正職員として教育委員会に配置され、学校地域支援本部のコーディネーターも兼務をしている。

学校運営協議会では、日程調整や案内文書の配布、資料準備や進行を行う。学校支援では、担任の要望を学校サポーターに伝え、協力のお願いや日程調整を行ったり、事前打ち合わせにも同行し、授業準備のサポートを行ったりしている。CSコーディネーターが連絡調整を行うことで、教職員の負担軽減につながっている。

学校サポーター(ボランティア)とともに～先生方へのメッセージ

地域とともにある学校づくりをめざして

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)にて、

学校支援活動は欠くことができないものです。

学校運営協議会 ← 協働 → 学校支援
この学校の教育をどのように進めるかを考える ← 連携 → 学校応援としての実践活動

パートナーシップとコミュニケーションを大切に

みなさん本来の仕事の時間や努力を割いて、支援しています。「子供たちの成長に、自分の持つ経験や知識などを活かしたい」という熱意を持っています。いろいろお話を聞いて思いを分かち合い、信頼関係を築きましょう。

学校サポーターの方は「ともに」活動する人たちのこと

サポーターの方々の思いや考えも尊重しながら、活動計画を立てたり、打ち合わせをしたりして、学校とサポーターの双方の思いが活きた活動につなげていきましょう。サポーターは、便利屋さんや下請屋さんではありません。ボランティアは、する側とされる側は対等です。ともに考え、ともに活動することが大切です。

帽子をとって 明るく元気にあいさつとお礼を

あいさつはコミュニケーションの第一歩です。サポーターの方は緊張しています。心をこめてあいさつしあつと気持ちが高くなって、活動がよりよいものになります。

そして、活動の後は感謝の気持ちを十分に伝えましょう。

上手く伝わっていないと感じたらフォローを

サポーターの方は教育のプロではありません。また、普段から子供と接しているとも限りません。子供たちへの説明や話が上手くまとまっていなかったり、伝わっていないと感じる場面があるかもしれません。その時は、声かけするなどして先生がリードしてあげましょう。

地域のみなさんから学ぼう それはきっと自分の財産に

多くの知識や体験を持っているサポーターの方から先生たち子供たちと学ぶ機会をしましょう。きっと何かを学ぶことができそうです。サポーターも、先生や子供たちと一緒に学んでいます。

寿都町教育委員会

(2) 学習内容

①地域を支える産業の学び

総合的な学習、生活科では、「大好き！海！」をテーマとして、水産業や特産物について学習を行っている。

体験学習を通して、漁師・漁業協同組合・水産加工業の人たちの仕事の苦労や工夫を学び、地域を支える産業について理解を深めている。

また、5・6年生では、2年間を通して、さけの学習を行っている。役場水産係や水産技術普及所のご協力のもと、さけの人工授精体験を行い、学校に設置している大型水槽で稚魚をふ化させ放流を行ったり、漁船に乗船したサケ漁体験やせり見学を行ったりすることで、資源保護をしながら活性化させていく漁業について学んでいる。

- ・1年生 磯遊び（海の生き物）
- ・2年生 ほたて（ほたての養殖・殻向き体験）
- ・3年生 寿かき（カキの養殖・洗浄・選別体験） 水産加工業の見学
- ・4年生 うに（うに漁について・うにのから剥き体験）
- ・5年生 さけの人工授精体験・せり見学
- ・6年生 さけの稚魚の放流・さけ漁体験 など

②町の歴史を支える伝統文化の学び

寿都町はかつてはニシン漁で栄え、道内でも歴史が古い町で2018年に開基350年を迎えている。旧歌棄佐藤家漁場や橋本家（旧鯨御殿）の歴史的建造物や、伝統文化を伝える「ひと」「もの」「こと」など、多くの地域資源がある。

3年生ではソーラン節、4年生では弁慶太鼓などを学校サポーターから学んだり、390年以上の歴史がある壽都神社の宮司さんからお祭りの歴史や成り立ちを学んだりすることによって、子ども一人一人の新たな気づきが故郷のよさを再発見する学びとなっている。

(3) 子どもと地域をつなぐために（CS交流会）

寿都町では年に1回、CSコーディネーターの企画立案で、CS委員や教育関係者、ボランティアや地域住民が参加するCS研修会を開催している。（今年度は中止）昨年度は、50名ほどが集い、各グループに分かれ「子どもと地域をつなぐために」という題材でワークショップを行った。それぞれの思いや関わり方を意見交換しながら、地域とともに子どもたちを育むための貴重な場となっている。

3 おわりに

年間50人を超える学校支援ボランティアのご協力における体験活動は、子どもたちにとって貴重な経験となって将来に繋がっていく。今後は、一つ一つの活動を点ではなく線として繋ぎながら子どもたちの力を高めていきたい。また、ボランティアの方々は、子どもを褒めることが上手である。教師にはない視点で子どもを捉え、「すごいね」と言葉をかけてくれる。その言葉は素直に子どもの心に染み込み、自己肯定感を高める一助となっていることに、学校も感謝の気持ちを忘れてはならない。

